

清宮監督W杯へ講演

静岡理工科大「もてなし」必要性訴え

ラグビー・トップリタ。2019年ワールドカップ(W杯)の開演が20日、袋井市の静岡理工科大で開かれ



講演する清宮監督＝袋井市の静岡理工科大

「ラグビーから学ぶ」が演題。清宮監督はヤマハ発以前に早稲田大なども率いた経験から「勝つことは目標だが目的ではない」と強調し、競技を通じた地域活性化への貢献の重要性を説いた。

清宮監督と原田英之市長、野口博字長による座談会も実施した。清宮監督はW杯の会場となるエコパスタジアム(同市)を「日本の芝生だ」と称賛する一方、「世界のラグビーファンはW杯時にど

のように街が盛り上がったかずっと記憶している」との見解を示し、大都市にはない独自の「もてなし」の必要性を訴えた。原田市長は「W杯を市民の国際化やスポーツ文化の定着の通過点にする」と言葉に力を込めた。

同大の公開講座の一環で、同大と市、ラグビーW杯2019県開催市開催推進委員会の主催。静岡新聞社・静岡放送も後援した。(袋井支局・伊藤龍太)